

24年度活動計画案

活動の基本方針：島原半島内の地域観光を連携強化して、地域に賦存する観光資源を有機的に結び付けその価値を高める（要するに、 $1 + 1 > 2$ にすることで観光価値を高めたり進化させたりする）ことを目的に、限られた予算の投下収益を最大化する具体的施策を行う。

<組織強化>

島原半島の自然や産業を観光と結び付け、島原半島内の地域観光団体をはじめ官民のステークホルダーと

連携して島原半島の観光情報を発信して国内外の観光客の誘致を促進していくにあたり、島原半島の地域観光連携の推進母体として求心力を強めていく必要から、一旦中止していた地域連携DMO法人としての登録を目指す検討を開始する。例えば、Savor Japan加盟などDMOをその参加要件としているものが多く、観光情報発信機会の引き上げにつながる。

（注）令和4年12月末に、それまで進めていた「地域連携DMO候補法人」を中止していたもの。その理由は、令和6年秋頃を目途に、半島全体で行うべき取り組みを一体的に行う仕組みづくりの検討を開始し、一本化協議会での検討を経て、DMO再申請を検討することが望ましいとの判断。

<情報発信強化>

長崎県観光連盟のネットワークであるTravelZipに参加導入することで、島原半島および各地域観光団体の情報アクセスを一機に引き上げることを目指す。ホームページ刷新、（紙媒体を減らし）デジタル情報化を推進する。

<半島観光情報発信>

島原半島レベルでの集客などの観光動向を定期的に発信する。

<経営運営監理強化>

昨年発覚した横領事件に象徴されるずさんな組織運営を改め、会計経理業務の管理体制を確立する。

<個別事業>

- ① $1 + 1 > 2$ 企画事業（食、温泉、宿泊、体験、自然など半島内コンテンツ連携企画）
修学旅行もここに入る。
- ② サイクル事業（過年度継続）
- ③ サイクル事業 「ツールド島原」実現にむけて推進組織づくり
- ④ 新しい体験メニュー開拓 自然などの体験、歴史巡礼など クルーズ観光客、TSMC
- ⑤ 外国人に開かれた観光地推進 多言語表記、半島内外国人交流
- ⑥ ユニバーサルツーリズム推進活動 観光層の拡大 遠隔距離を超えるOriHimeの試み
- ⑦ 半島内の高校探究観光関連活動との連携 次世代に半島の魅力を知ってもらう
- ⑧ 半島住民むけの日帰り観光ツアー 住民に地域以外の半島の魅力を知ってもらう